

# 日本経済新聞

4月3日

水曜日

## 農産物輸出

### 1兆円への道

①

政府が掲げる2019年の「農林水産物・食品輸出1兆円」の目標達成が視野に入った。18年の輸出額は17年比で12・4%増の9068億円。6年連続で増え、過去最高額を更新した。目標達成への歩みを品目ごとで紹介する。

コメはようやく輸出品目として存在感が出てきた。

#### コメ輸出は2013年から急拡大



## コメ・日本酒

### 減反廃止で急拡大



インバウンド需要も海外展開の契機になっている(新潟・佐渡島の尾畑酒造)

農林水産省によると18年は前年比17%増の1万3794万、金額は18%増の37億円となった。1970年代からの減反政策の中では、海外市場に目が向きにくかった。

10年までコメ輸出(食料援助を除く)は年間2千トに満たなかったが、急速に伸びて現在は7倍になった。転換点となったのは、

政府が減反廃止の方針を決めた13年だ。17年産で減反

が終わり輸出に本格的に取り組む環境になってきた。現在のコメ輸出のうち、

6割は香港(中国本土を除く)とシンガポール向けだ。JAたまな熊本(熊本市)は、シンガポールの焼き鳥チェーンに「やまだわら」というコメを輸出している。今後は世界最大のコメ消費国、中国への輸出に期待がかかる。

一方、金額ではコメより加工品の日本酒が目立つ。18年の日本酒輸出は2222億円とコメの6倍だった。ロンドン、パリ、ブリュッセルで続々と日本酒の品評会も開催されるようになった。フランス料理にはワインだと合わせづらかった食材もある。「日本酒をペアリングできる」との認識がパリの飲食店でも広まりつつある(日本ソムリエ協会 田崎真也会長)という。